

体質踏み込む究明を 公共交通の事故多発問題

本村議員 衆院国交委



本村伸子衆院議員は21日、国土交通委員会、JR山手線の支柱倒壊、青函トンネル内の特急列車発煙など、多発する公共交通機関のトラブル・事故の問題をとりあげ、国交省の対応をただしました。本村氏は冒頭、10年前のJR福知山線脱線事故の背景に、安全への投資を減らし、利益を優先する企業体質があったことを指摘。その上で、この間相次いだ事故について、「企業体質にまで踏み込む徹底した原因究明と、それに基づく再発防止策をとるべきだ」と主張しました。

太田昭宏国交相は「重大な事態だ。安全確保は何よりも優先される」と述べ、原因究明に取り組むと答えました。

本村氏は、今月12日に起きた山手線支柱倒壊事故では、柱の傾きを認識しながら補修を先延ばししていたJR東日本を批判。また、JR東日本が報告するまで、国交省が事故

発生のおそれがあるとすする「インシデント」と判断できなかったことについて、「それでは監督責任が果たせない。現場の調査を含め、権限を強めるべきだ」と指摘しました。

本村氏はまた、今月3日に起きた青函トンネル内の発煙では、地上への避難のため乗客に大きな負担が強いられたことから、全路線の86%がトンネルになるリニア新幹線が建設された場合の避難マニュアルを作成・公表させるように求めました。

中東での自衛隊居座りを批判

井上議員・参院外交防衛委



ただ良介参院比例候補
―東海4県で市議選応援―

来年の参院選比例代表のただ良介候補が20日、静岡・富士宮市、21日、愛知・一宮市、豊橋市、22日、三重・四日市市(写真左)、23日、岐阜・高山市、中津川市で各候補者の勝利を訴えました。

井上哲士参院議員は23日、外交防衛委員会、海賊対策をテコにし、戦争立法と一体となった中東での自衛隊の居座りと他国軍との共同の強化の問題をただしました。

海賊対処活動のために自衛隊がアデン湾に派遣されて以来、ソマリア海賊事案は2011年の237件をピークにして昨年は11件にまで減っています。「沈静化したら撤退する」としていたのに、逆に自衛隊の活動は強化されていま

す。

2013年からは多国籍部隊CTF151に加わってゾーンディフェンスに参加し、5月末からは自衛官がこの部隊の司令官に就任します。

CTF151は米軍主導の部隊であり、米国は軍事行動として位置付けていますが、中谷防衛相は「司令官の任務は連絡調整であり問題ない」と言い訳。

さらに、海賊対処活動の拠点だとしてジブチに基地を作りましたが、沈静化に伴い縮小するのではなく、その活用のための調査費3千万円を計上しています。井上氏は、中谷防衛相が派遣当時の与党プロジェクトの責任者であり、質問で「軍を出すことは大事。抑止力やプレゼンスという言葉もある」と述べていることを示し、「海賊対策での自衛隊派遣をテコに、中東への駐留の恒常化、軍事的プレゼンス、他国軍との共同の強化を狙うものだ」とその中止を求めました。

